

2024年度地域連携事業費

「寄り合いワークショップ」手法を活用した掛川市千浜区住民と「ふくしあ」との協働による住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせる健康な地域づくり

三輪眞知子¹⁾ 江口晶子¹⁾ 長山ひかる¹⁾ 遠山大成¹⁾ 櫻井郁美²⁾ 片岡詩織²⁾ 白松千愛³⁾
1) 聖隷クリストファー大学 2) 掛川市地域包括ケア推進課 3) 南部大東ふくしあ

研究背景

掛川市は地域健康医療支援センター「ふくしあ」を市内5カ所に設置している。近年は、ハイリスクアプローチとしての個別支援と共にポピュレーションアプローチとしての健康な地域づくりに発展させるべく、「ふくしあ」と地域が直接つながる場として「地域元気のWA!」を開催している。しかし、地域の課題を解決する取り組みにまでに到っていないことが課題である。

研究目的

「いつまでも元気に安心して暮らし続けられることができる千浜地区」を目指し、地区住民と掛川市「南部大東ふくしあ」が協働で地区の課題や、地区の強みを活かした解決策を話し合うことで、共に課題解決に取り組むことである。

研究方法

1. 対象
- 千浜6地区区長、民生児童委員、福祉委員、住民 30～40人
2. 方法
- 事前調査と2回の寄り合いワークショップの開催
- 1) 事前調査
- 大学教員と行政保健師が掛川市千浜地「外から見た資源写真地図」作成
- 2) 寄り合いワークショップ開催
- (1) 第1回寄り合いワークショップ
- 日時：2024年11月11日（月）18:30～21:00
- 場所：掛川市千浜西コミュニティセンター
- 内容：①「いくつになっても暮らし続けられる千浜地区」問題・悩み・将来像は？について意見地図作成、意見に重要度をつけ投票
- ②課題解決に向けたイラストアイディアカード作成（宿題）
- (2) 第2回寄り合いワークショップ
- 日時：2024年11月11日（月）18:30～21:00
- 場所：掛川市千浜西コミュニティセンター
- 内容：①「いくつになっても暮らし続けられる千浜地区」のイラストアイディア地図作成、取り組みに重要度をつけ投票
- ②実行計画作成
- ③実行計画実践の方向性の検討

結果

1. 事前調査結果（図1）

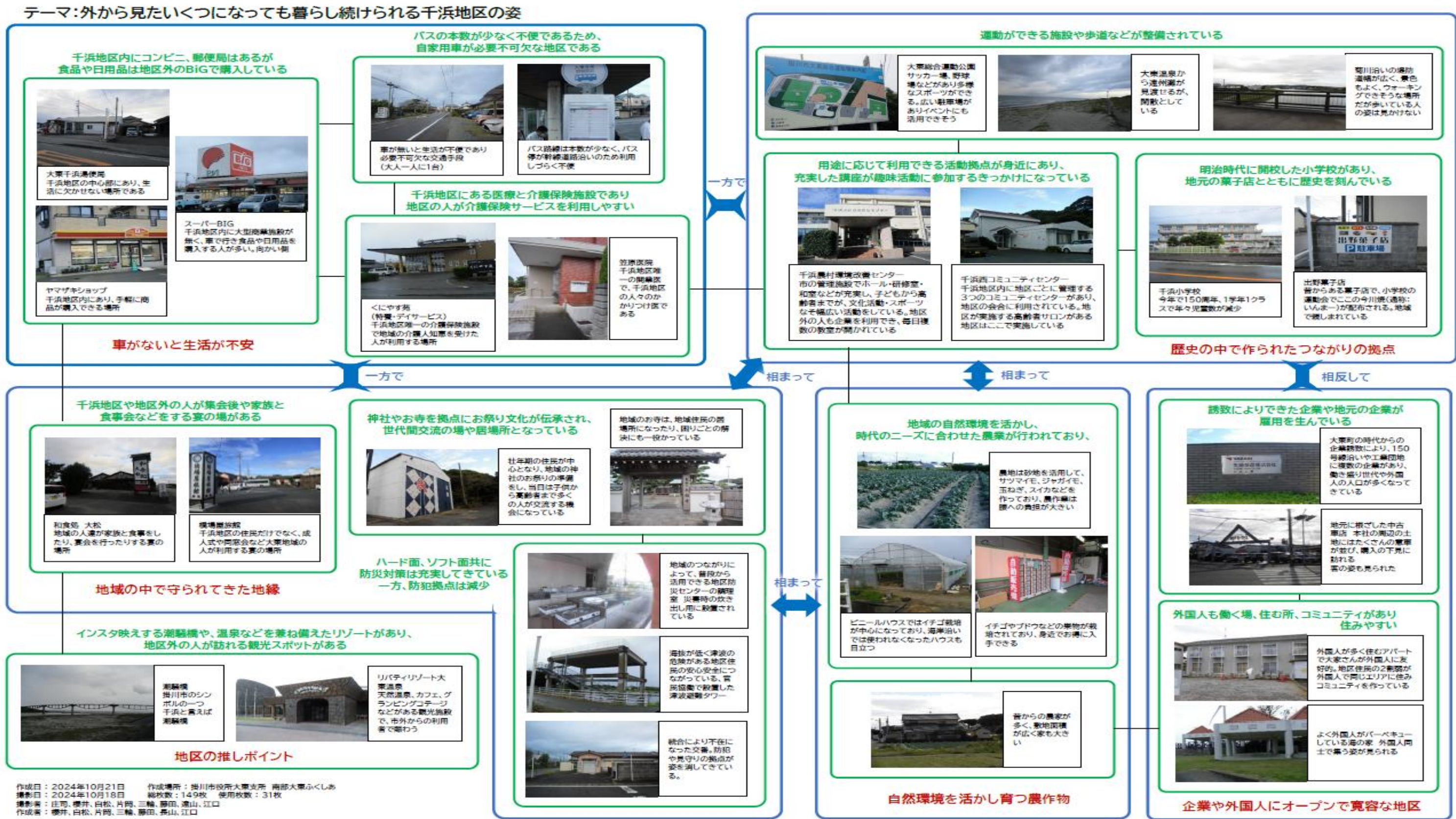


図1 外から見たいくつになっても暮らし続けられる千浜地区の姿

車がないと生活が不安な一方で、地域の中で守られてきた地縁や歴史の中で作られたつながりの拠点、また恵まれた自然環境を活かし育つ農作物などが生活を豊かにしている。つながりに固執することなく、企業や外国人にオープンで寛容な地区であり地区の推しポイントも有している

2. 第1回結果（図2～5）

参加者は33人（住民22人・ふくしあ9人・学生2人）



図2 グループでの話合いの様子



図3 みんなの意見の全体像



図4 重要度を投票

1位	G：免許返納後の交通が課題	10.9点
2位	D：買い物の難民の増加	6.8点
3位	F：病院が少ない	5.2点
4位	E：近くに病院がなくなる	4.6点
5位	J：子弟の地元離れ	3.9点
6位	T：疲れる地区役員	3.1点
7位	B：生活関連施設が何もなくなくなるかも	3.0点
8位	P：高齢者が孤立しない地域づくり	2.2点
9位	S：外国人との交流	2.0点
10位	O：空き家の増加	1.9点
N	若い世代が安心して生活する環境づくり	1.9点

図5 投票結果

3. 第2回結果（図6～7）

参加者は39人（住民29人・ふくしあ8人・学生2人）



図6 アイディアカードの一部



図7 アイディア地図

1位	F 地域で支える合法化白タクかバス	82点
2位	G 移動販売による買い物支援	71点
3位	I 月1回千浜保健室開催	55点
4位	M 空き家の利活用	42点
5位	J 病院の誘致	41点
6位	C 自動運転にチャレンジ	38点
7位	A 役員の魅力づくり	32点
7位	P 外国人との交流の場づくり	32点
9位	R のみの市の開催	25点

図8 アイディアカードの一部

投票の 詳細順位	アイデア項目	難易度 A B C (上から)	緊急度 (実現目標) (○印の記入)				役割分担・主体 (誰がやるか) (主体者●、協働者○の記入)			実現 したい 投票数	実現 したい 順位
			短期 1年以内	中期 1〜3年	長期 4〜5年	住民 協働	協働 かふあ				
1	F 地域で支える合法化白タクかバス	A			○		●	○	93	2	
2	G 移動販売による買い物支援	B		○			●		104	1	
3	I 月1回千浜保健室開催	B		○				○	72	3	
4	M 空き家の利活用	A			○			○	57	4	
5	J 病院の誘致	A			○			●	29	10	
6	C 自動運転にチャレンジ	A			○			●	34	9	
7	A 役員の魅力づくり	B		○			●		44	7	
7	P 外国人との交流場づくり	B		○			●	○	36	8	
9	R のみの市の開催	B		○			●		56	6	
10	N 畑でサロン	B		○			●		57	4	

図9 実行計画

4. アンケート結果（表3・図10）

配布39 人、回収数34人、回収率87%

表1 寄り合いワークショップに参加について				N=34人 人(%)	
1 良かった	2 まあ良かった	3 あまり良くなかった	4 良くなかった	総計	
13(38)	20(59)	1(3)	0(0)	34(100)	
表2 寄り合いワークショップのような話し合いの場の必要性について				N=34人 人(%)	
1 必要だと思う	2 やや必要だと思う	3 あまり必要だと思う	4 必要だと思わない	総計	
17(50)	17(50)	0(0)	0(0)	34(100)	
表3-1 内容 今後の活動について、ふくしあと一緒に考える機会					
大いと思う	まあ思う	あまり思わない	全く思わない	総計	
16(47)	15(44)	3(9)	0(0)	34(100)	
表3-2 内容 同じ地域に住む人同士の交流の場					
大いと思う	まあ思う	あまり思わない	全く思わない	総計	N=34人 人(%)
12(35)	20(59)	2(6)	0(0)	34(100)	
表3-3 内容 ふくしあについて知る機会					
大いと思う	まあ思う	あまり思わない	全く思わない	総計	N=34人 人(%)
11(32)	20(59)	3(9)	0(0)	34(100)	
表3-4 内容 自分の住む地域の現状を知ること					
大いと思う	まあ思う	あまり思わない	全く思わない	総計	N=34人 人(%)
17(50)	17(50)	0(0)	0(0)	34(100)	

実現したい順位	アイデア項目	取り組んでみたいと意思表示した人数
1	F:移動販売による買い物支援	6人
2	G:地域で支える合法化白タクかバス	3人
3	I: 月1 千浜保健室開催	3人
4	M: 空き家の利活用	1人
5	N: 畑でサロン	1人
6	R: のみの市の開催	3人
7	A: 役員の魅力づくり	3人
7	P: 外国人の交流場づくり	1人
9	C: 自動運転にチャレンジ	3人
10	J: 病院の誘致	4人

図10 計画実践意思表示者数

5. 寄り合いワークショップ後実行計画実施の動き（図11）

1. 6位 「千浜モーニングマーケット」開催：2025年3月9日（日）
2. 2位 「運転ボランティア養成講座」開催：2025年3月6日（木）
3. 3位 「月1千浜保健室」開催:実行員会を組織化して2025年度開催予定
4. ランク外 「お寺でコンサート」：2025年5月予定

図11 実行計画実践の動き

結論（地域連携の成果・課題）

「寄り合いワークショップ」を活用することにより、一部ではあるが、地域課題解決の取り組みに至った。今後は実行計画実行委員会などを結成させ、住民主体の持続可能な取り組みにすることが課題である。